

高齢者にみる社会参加活動の動向

宮崎 冴子
(東京経営短期大学)

【要旨】

本論文は、高齢者男性が、退職後の地域でどのようにライフデザインを描きながら過ごしているか、あるいは自己実現しているかなどについて検証する。そこで、高齢者男性の社会参加活動に関する意識や行動について実態をみるために、区立地域センターや区立社会教育会館などに登録をしている団体に所属し、活動している20歳以上の成人男性学習者に、期間を限定してアンケート調査を実施した。そのなかから、60歳以上を高齢男性として統計を検出し、高齢であることの特性を検証する。また、同地域・同内容の成人女性学習者への調査も実施したので、男女比較も試みながら、21世紀の超高齢社会に柔軟に対応できる高齢学習者の生き方・あり方について考察したい。

1. はじめに

日本の人口構成は、平均寿命の延伸と出生率の低下により、急速に高齢化が進展している。こうした高齢社会の行方を鑑みて、1989年には「ゴールドプラン」、1994年には「新ゴールドプラン」、また、高齢者本人や家族の抱える介護の不安や負担を社会全体で支え合うために、2000年4月から「介護保険制度」が始まった。

一方で、1998年からは、一律定年制の定年年齢を60歳以上とすることが法的義務化され、60歳未満の定年については民事上無効となった。また、1994年の「年金法」の改正により、2001年から2013年にかけて、段階的に年金支給開始年齢が引き上げられ、最終的には65歳以上から支給が開始される。

こうした状況において、60歳以上の高齢者の介護対象者は2割にも満たない状況であり、ほとんどは体力・知力・意欲ともに十分な高齢者で、社会に対しても生きがいの場を求めている高齢者が多数であることを考える必要がある。

とくに、長年にわたり、仕事に多くの時間と労力を使い、肩書きを背負って頑張ってきた元気な男性たちのリタイヤ後、「社会参加をしながら、地域にうまくソフトランディングしているか、自己実現しているか」が、今日の社会的課題となっている。

したがって、社会参加活動に関する高齢者の意識や行動を把握し、21世紀の高齢社会の仕組み作りを工夫していくことは今まさに重要課題といえる。

そこで、「男性のライフコースに関する研究—継続学習の意識と行動—」（日本生涯教育学会第18回大会、1997）において、20歳以上の成人男性の生涯学習に関する参加活動について報告した。また、同地域・同内容で実施した成人女性に対するアンケート調査結果を「ミドルエイジにおける女性のキャリア開発—女性団体登録会員に対するアンケート調査

を基に一」(第16回日本生涯教育学会、1995)において報告したが、本論では、60歳以上の男女の高齢者を抽出し、高齢であることの特性を明らかにする。また、各項目の①高齢者女性、②高齢者男性において男女比較を試みながら、性別による特性についても考察する。

2. 研究の方法

研究の目的を明らかにするために、アンケート調査とヒアリングを実施して分析を行った。生涯学習やボランティアなどの社会参加活動を継続している20歳以上の団体会員を対象に、東京都S区立社会教育会館7か所と地域センター2か所でアンケート用紙を配布した。

各施設に出向き、活動中の学習者に質問紙を配布し、その場で回収した。回答時間が不十分な人は返信用封筒で返送してもらった。同時に、原則として代表者にヒアリングを依頼し、質問紙に沿った内容について聞いた。施設に行けない場合には、代表者に質問紙を郵送し、回答をまとめて返送してもらった。

①上記の方法で、20歳以上の女性学習者に対するアンケート調査とヒアリングを実施した結果(1995年5月6日～6月5日)、736人(配布1400人、有効回答率52.8%)の回答を得た。

②上記の方法で、20歳以上の男性学習者に対するアンケート調査とヒアリングを実施した結果(1997年5月6日～6月5日)、437人(配布1200人、有効回答率36.1%)の回答を得た。

3. 調査の結果と考察

(1)回答者の属性(表1～表8)

①上記の生涯学習関連施設における成人女性の学習者の年代別分布は、各世代に分散しているが、40代後半からが顕著である。そこで、60歳以上の高齢者女性を抽出したところ、225人(成人全体の30.5%)であった。

高齢者女性のうち、就業者は96人(42.7%)で、非就業者は129人(57.3%)である。就業者の職業は、専門・技術的な仕事が40.6%、経営管理的な仕事が29.3%で、合わせて全職種の69.8%を占め、他の職種はごくわずかである。

職業欄では全員が回答しているが、週平均就業時間数や仕事上の立場・役職などの欄で無回答者の割合が高い。これは、「どれに○印をしたらいいのか迷う」ほどに、女性のライフデザインが個別的で多様化、まわりの状況が変化し規則的な就業状況ではない人が多いことも影響していることがヒアリングからわかった。

②成人男性の学習者では、若年層が少ない傾向にある。60歳以上の高齢者男性は成人全体の65.9%(288人)である。高齢者で就業中の男性は、成人就業者の40.9%を占めている。

高齢者男性の中では、就業者が99人(34.4%)で、非就業者は189人(65.6%)である。高齢者男性の職業は経営管理的な仕事が29.4%、専門技術的な仕事が27.2%と答え、合わせて56.6%である。仕事上の立場は、パート・臨時が34.3%、自営が28.3%、正社員が22.2%とつづく。

また、非就業者のうち高齢者男性は189人で、20歳以上の非就業者の97.0%を占めている。また、60歳代より70歳以上の方が学習者数が多いことから、男性退職者の利用が顕著であるといえる。

表1. 成人女性・年齢別 (%)

	全 体	就 業	非就業
20～24歳	1.2	1.5	0.9
25～29	3.4	4.4	2.1
30～34	3.0	3.2	2.7
35～39	6.7	7.9	5.2
40～44	9.5	11.3	7.3
45～49	18.9	21.1	16.2
50～54	15.9	17.7	13.7
55～59	10.9	9.4	12.7
60～64	15.7	13.1	19.2
65～69	8.9	5.7	12.7
70歳以上	5.9	4.9	7.3
合 計	100.0	100.0	100.0
	N=736	N=406	N=330

表2. 成人男性・年齢別 (%)

	全 体	就 業	非就業
20～24歳	0.9	0.8	1.0
25～29	3.2	5.0	1.0
30～34	2.1	3.7	0.0
35～39	3.7	6.6	0.0
40～44	4.1	7.4	0.0
45～49	8.0	14.0	0.5
50～54	6.6	12.0	0.0
55～59	5.5	9.5	0.5
60～64	12.6	17.5	6.7
65～69	22.2	16.1	29.7
70歳以上	31.1	7.4	60.6
合 計	100.0	100.0	100.0
	N=437	N=242	N=194

表3. 高齢女性・職業別 (%)

	全 体	就 業	非就業
事 務 職	2.7	6.3	0.0
販 売 関 係	2.2	5.3	0.0
製造・作業関係	2.2	5.3	0.0
専門技術的	17.3	40.6	0.0
サービス業関係	1.3	3.1	0.0
経営管理的	12.5	29.2	0.0
学 生	0.0	0.0	0.0
無 職	10.7	0.0	17.8
主 婦	46.7	0.0	81.4
そ の 他	4.4	10.2	0.8
合 計	100.0	100.0	100.0
	N=225	N=96	N=129

表4. 高齢男性・職業別 (%)

	全 体	就 業	非就業
事 務 職	4.9	14.1	0.0
販 売 関 係	1.4	4.0	0.0
製造・作業関係	2.4	7.1	0.0
専門技術的	9.5	27.2	0.0
サービス業関係	3.1	9.1	0.0
経営管理的	9.9	29.4	0.0
学 生	0.0	0.0	0.0
無 職	65.7	0.0	100.0
そ の 他	3.1	9.1	0.0
合 計	100.0	100.0	100.0
	N=288	N=99	N=189

表5. 高齢女性・週平均就業時間 (%)

	就 業
10時間未満	10.4
10～29時間	12.5
30～49時間	30.2
50時間以上	9.4
無 回 答	36.5
合計(N=96)	100.0

表6. 高齢男性・週平均就業時間 (%)

	就 業
10時間未満	13.2
10～29時間	24.3
30～49時間	47.3
50時間以上	0.0
無 回 答	15.2
合計(N=99)	100.0

表7. 高齢女性・立場 (%)

	就 業
正 社 員	14.7
パート臨時	13.5
派遣社員	0.0
フリー	10.4
自分で経営	13.5
夫と自営	9.4
無 回 答	38.5
合計(N=96)	100.0

表8. 高齢男性・立場 (%)

	就 業
正 社 員	22.2
パート臨時	34.3
派遣社員	1.0
フリー	5.1
自 営	28.3
無 回 答	9.1
合計(N=99)	100.0

(2)高齡学習者の学習・ボランティア活動の分野（表9～表11）

①学習分野について複数回答で聞いたところ、表9のように高齡者女性全体では「社会福祉関係」と「趣味・一般教養」が僅差で上位を占め、「街づくり・地域活動」がつづく。

ボランティア活動の分野については、「専門技術・職業関連、趣味・一般教養、健康保持・体力づくり」はボランティアに馴染まないのではと考え、これらの項目を削除し聞いた。調査の結果、表10のように回答者の約半数が「社会福祉関係」と答えている。ついで、42.5%が「街づくり・地域活動」のボランティア活動を実践していると答えている。

複数回答であることや団体などの代表者のヒアリング結果と合わせて分析すると、高齡者女性の「学習」と「ボランティア活動」の分野には関係性があると考えられる。つまり、学習活動の中から発展した問題解決のためにボランティア活動を始め、学習とボランティア活動を併行しているケースが多いというのである。

②高齡者男性については、同じ質問番号・同項目で聞いた。学習分野には○印、ボランティア活動分野には△印をつけてもらった。その結果、表11のように、学習分野は回答者の67.7%が「趣味・教養」、33.0%が「健康保持・体力づくり」が上位を占めている。

ボランティア活動の分野については、学習活動に比べてボランティア活動中と答えた人数が少ない。高齡者男性は、学習・ボランティア活動のそれぞれに関わり、双方の分野が必ずしも連動していない状況がうかがわれる。

(3)高齡学習者の活動参加状況（表12～表15）

①高齡学習者の活動状況をみるために、所属団体での活動年数・参加回数について聞いた。表12によると、10年以上と答えた高齡者女性が58.3%を占め、活動をはじめてから長期にわたり継続していることがうかがえる。参加回数は月1回以上が80.8%を占め、そのうち月4～9回（週1～2回）が32.4%、月10回以上（週2～3回以上）と答えた人が12.0%である。

ヒアリングによると、参加回数の多い高齡者女性は、複数の分野を兼ねながら活動している傾向があり、その活動がヒューマン・ネットワークを拡げて、さらに活動分野が多角化するという。一方で、表9のように、非就業者の中で「趣味・一般教養、健康保持・体力づくり」に終始し、ボランティアにはあまり関心がないという層も存在するという。

②高齡者男性の活動年数は、高齡者女性に比べると短い方にシフトしている。活動年数が10年以上と答えた人が就業者群では47.6%、非就業者では33.9%である。

ヒアリングによると、地域で自営業を営んでいる人や、現役時代から活動を継続している企業人などは活動年数が長くなっている。長年の信用やヒューマン・ネットワークなどから、依頼されたり誘われたりする機会が増え、活動がさらに多角的になっているという。

しかし、退職前後から活動を始めた人は、すぐには仲間づくりがスムーズに進まないし活動分野も拡がらず、開始の数期間は苦労していると述べている。また、長年の勤めの疲れからか、社会的貢献より自分自身の趣味や健康保持に関心を持つ人もいるという。

また一方で、同種の学習分野への参加活動に時間を十分使っている人もいる。たとえば、各施設に借用限度回数が決めているので、同じメンバーが複数の施設に登録して、同月に複数の施設に出かけて学習回数を増やしている団体もあるという。これらから、高齡者男性にとって、学習への参加が生活時間の中で大きく占めていることがわかる。

表9. 高齢女性・学習分野(3つ以内・%)

	学習 全体	学習 就業	学習 非就業
街づくり・地域活動	26.3	18.8	27.9
教育関係	15.1	19.8	9.3
国際交流・国際援助	17.7	18.8	7.0
環境問題	11.7	12.5	8.5
社会福祉関係	35.1	36.1	33.3
消費者運動生活改善	9.8	10.4	9.3
専門技術・職業関連	2.4	5.2	0.0
人権擁護	6.3	7.3	0.0
趣味・一般教養	34.1	25.0	35.7
健康保持・体力作り	15.1	6.3	19.4
女性問題解決・啓発	17.1	18.8	15.5
その他	5.4	8.3	4.7
合計	196.1 N=134	206.1 N=50	170.6 N=84

表10. 高齢女性・ボランティア活動分野(3つ以内・%)

	ボランティア 全体	ボランティア 就業	ボランティア 非就業
街づくり・地域活動	42.5	36.0	46.4
教育関係	13.4	20.0	9.5
国際交流・国際援助	12.7	18.0	9.5
環境問題	9.7	12.0	8.3
社会福祉関係	50.7	46.0	51.2
消費者運動生活改善	11.2	12.0	10.7
人権擁護	3.0	6.0	3.6
女性問題解決・啓発	13.4	18.0	10.7
その他	5.2	8.0	3.6
合計	161.8 N=134	176.0 N=50	153.5 N=84

表11. 高齢男性・学習とボランティア活動の分野(3つ以内・%)

	学習 全体	学習 就業	学習 非就業	ボランティア 全体	ボランティア 就業	ボランティア 非就業
街づくり・地域活動	9.9	9.1	10.1	5.6	14.1	6.3
教育関係	7.6	8.1	7.4	2.8	3.0	2.6
国際交流・国際援助	3.4	5.1	3.2	3.5	5.1	2.6
環境問題	3.1	3.0	3.2	2.1	4.0	1.0
社会福祉関係	6.9	10.1	5.3	6.6	8.1	5.8
消費運動生活改善	0.0	0.0	0.0	1.7	2.0	1.6
専門技術・職業関連	6.9	17.2	1.2	0.0	0.0	0.0
人権擁護	0.3	0.0	0.5	0.3	1.0	0.0
趣味・一般教養	67.7	60.0	71.4	3.1	2.0	4.2
健康保持・体力作り	33.0	26.3	36.5	5.2	1.0	2.1
その他	1.0	3.0	0.0	7.6	11.1	4.9
合計	139.8 N=264	141.9 N=85	138.8 N=179	34.4 N=68	51.3 N=29	30.4 N=39

表12. 高齢女性・活動年数(%)

	全体	就業	非就業
1年以内	1.8	2.1	1.6
2～4年	12.9	16.7	10.1
5～9年	24.4	18.8	28.7
10～19年	30.7	27.1	33.3
20年以上	27.6	30.2	25.6
無回答	2.6	5.1	0.7
合計	100.0 N=225	100.0 N=96	100.0 N=129

表13. 高齢男性・活動年数(%)

	全体	就業	非就業
1年以内	8.0	8.0	7.9
2～5年	33.0	32.3	33.4
6～9年	18.4	11.1	22.2
10～19年	24.3	25.3	23.8
20年以上	14.2	22.3	10.1
無回答	2.1	1.0	2.6
合計	100.0 N=288	100.0 N=99	100.0 N=189

表14. 高齢女性・活動回数(%)

	全体	就業	非就業
月10回以上	12.0	10.4	13.2
月4～9	32.4	32.3	32.6
月1～3	36.4	35.4	37.0
年6～10	6.7	5.2	7.8
年5回以内	3.6	4.2	3.1
無回答	8.9	12.5	6.3
合計	100.0	100.0	100.0

表15. 高齢男性・活動回数(%)

	全体	就業	非就業
月10回以上	8.7	11.1	7.4
月4～9	40.2	34.4	43.5
月1～3	35.8	35.5	36.0
年6～10	6.9	7.0	6.9
年5回以内	2.4	3.0	2.1
無回答	6.0	9.0	4.1
合計	100.0	100.0	100.0

(4)高齢学習者の学習・ボランティア活動の影響（表16・表17）

①高齢者女性に「ボランティア活動の日常生活への影響」について聞いた。回答者の52.8%が「自分と違う考えが理解可能になった」と答えている。

ついで、「生活に張りができた、経験を積み自信がわいた、自分を客観視できるようになった、一生つき合える友人ができた」がつづく。

ヒアリングでは、「地域活動の中で切磋琢磨でき仲間に育てられた。ボランティアは他人のためだけでなく自分のためにもなっている」と述べている。

たとえば、老人給食ボランティアで送り手として活動中の75歳の女性が、「大切なライフワーク」と述べている。

ボランティア活動により、自己理解や他者受容が精神的な自立を助長し、「生きがい・自己実現」につながると、とらえていることがわかる。

②高齢者男性に「学習活動の日常生活への影響」について聞いたところ、

「生活に張りができた」と答えた人が31.6%である。ついで「教養が高まった、健康になった、自分と違う考えが理解可能になった」がつづく。就業者に限ると、「自分と違う考えが理解可能になった」が一番多く、「教養が高まった、健康になった」がつづく。

ヒアリングによると、「長年の勤務生活から解放され、これまでにできなかったことを余暇活動の一環として」学習する高齢者男性がいる。

一方で、定年後のライフステージの充実した「生きがいづくり」と考え、積極的に「仲間づくり」をし、多角的な学習活動を展開している人もいる。

高齢者男性は、学習活動に対する行動力が日常の生活にも大きく影響すると意識していることがうかがえる。

表16. 高齢女性・ボランティア活動の影響(4つ以内・%)

	全体	就業	非就業
自分と違う考えが理解可能になった	52.8	47.8	55.8
意見をはっきり言えるようになった	22.8	21.7	23.4
自分を客観視できるようになった	27.6	34.8	23.4
仕事がどんなものか解った	12.6	13.0	13.0
教養が高まった	13.8	8.7	16.9
経験を積み自信がわいた	29.1	23.9	33.8
生活に張りができた	37.4	34.8	39.0
一生つき合える友人ができた	21.1	23.9	19.5
活動が信用に繋がり就職した	2.4	2.2	2.6
高齢期への恐れがなくなった	7.3	8.7	6.5
健康になった	7.9	6.5	9.1
リハビリの効果があつた	1.6	2.2	1.3
若返った	5.7	4.3	6.5
家族から苦情が出た	3.3	2.2	3.9
無理をして体調を崩した	2.4	4.3	1.3
その他	3.3	6.5	1.3
合 計	251.1 N=123	245.5 N=46	257.3 N=77

表17. 高齢男性・継続学習の影響(2つ以内・%)

	全体	就業	非就業
自分と違う考えが理解可能になった	20.9	34.6	13.7
意見をはっきり言えるようになった	5.1	7.4	3.9
自分を客観視できるようになった	9.8	14.8	7.2
仕事がどんなものか解った	1.3	3.7	0.0
教養が高まった	31.6	29.6	32.7
経験を積み自信がわいた	9.8	12.3	8.5
生活に張りができた	32.5	19.8	32.7
一生つき合える友人ができた	11.5	9.9	12.4
活動が信用に繋がり就職した	0.9	2.5	0.0
高齢期への恐れがなくなった	6.8	4.9	7.8
健康になった	25.6	23.5	26.8
リハビリの効果があつた	0.4	0.0	0.6
若返った	12.4	9.9	13.7
家族から苦情が出た	0.9	1.2	0.6
無理をして体調を崩した	0.9	0.0	1.3
その他	1.3	1.2	1.3
合 計	171.7 N=234	175.3 N=81	163.2 N=153

(5) 高齢者男性の「社会から期待される能力」に関する意識(表18・表19)

地域で学習活動を行う場合に、男女のパートナーシップは不可欠である。性別による期待度をみるために、「女性が仕事をする時、社会から期待される能力」に関する意識を高齢者男性に聞いたところ、「協調性・順応性」を一番に挙げている。ついで、「仕事への責任感、意欲」「専門知識・技術」がつづく。一方で、「リーダー・シップ」については、ほとんど女性に対して期待を寄せていないことがわかった。

おなじく、「男性が仕事をする時、社会から期待される能力」について聞いたところ、「仕事への責任感、意欲」を一番に挙げている。ついで、「専門知識・技術、判断力、企画分析問題解決等仕事処理能力」と答えている。

表18. 高齢男性・女性が社会から期待される能力(3つ以内%) 表19. 高齢男性・男性が社会から期待される能力(3つ以内%)

	全 体	就 業	非就業
企画分析問題解決等 仕事処理能力	17.4	18.6	16.7
専門知識や技能・技術	41.3	44.3	39.5
判 断 力	29.9	27.1	31.6
仕事への責任感、意欲	48.9	47.1	50.0
表現能力・ コミュニケーション能力	29.3	37.1	24.6
リーダー・シップ	1.6	0.0	2.6
協 調 性、順 応 性	53.8	57.0	51.8
一 般 常 識	25.0	24.3	25.4
そ の 他	0.0	0.0	0.0
合 計	247.2	255.5	242.2
	N=184	N=70	N=114

	全 体	就 業	非就業
企画分析問題解決等 仕事処理能力	40.8	36.7	43.3
専門知識や技能・技術	47.1	48.9	46.0
判 断 力	43.3	38.9	46.0
仕事への責任感、意欲	50.4	51.1	50.0
表現能力・ コミュニケーション能力	10.8	16.7	7.3
リーダー・シップ	25.0	24.4	25.3
協 調 性、順 応 性	24.2	26.7	22.7
一 般 常 識	12.1	14.4	10.7
そ の 他	0.0	0.0	0.0
合 計	253.7	257.8	251.3
	N=240	N=90	N=150

4. おわりに

アンケート調査とヒアリングの結果から、「高齢者男性が退職後の地域で生き生きと過ごせるか、自己実現できるか」については、①社会参加活動への前向きな意識と行動力がある、②企業人の肩書きなどの刷り込みを早くに脱却する、③学習回数や参加時間などを増やし、ヒューマン・ネットワークを拡げたり深める努力をすることなどが、ソフトランディングできることに大きく関わっていることがわかった。

アンケート調査の作業を通して、女性より男性の方が自己開示を渋る傾向があることを経験した。たとえば、アンケート調査を依頼をすると、女性はすぐに快く応じてくれるのに、男性の方が明らかに嫌悪感を示す人が多かった。

また、「自分が高齢者であることを受容できない、お爺さんと言われることに納得いかない」という高齢者男性にも出会った。

今後の課題として、高齢男性がなぜ自己開示を渋り、地域で当事者意識を持ちにくいのかについても考えたい。さらに、社会参加活動をしていない高齢男性の本音を聴き、どのような自助努力ができ、どのような社会支援が必要なのかを考え、これからの超高齢社会に柔軟に対応できる高齢者の生き方・あり方を探ることを継続していきたいと思う。

【資料】 男性のライフコースに関するアンケート

近年の情報化、国際化、科学技術の進展は社会構造に大きな変化をもたらし、延伸する平均寿命と共に長期化する成人期のライフプランに発想転換が求められています。皆さまのご意見をおうかがいし、今後の社会教育発展の参考にさせて頂きたく存じます。無記名にて、ご迷惑をおかけしませんので宜しくお願いします。

I. 団体に所属して活動されている方におうかがいします。

Q1. あなたのご年齢はおいくつですか。(該当個所に○印をつけて下さい)

- (1) 20～24歳 (2) 25～29歳 (3) 30～34歳 (4) 35～39歳 (5) 40～44歳 (6) 45～49歳 (7) 50～54歳 (8) 55～59歳 (9) 60～64歳 (10) 65～69歳 (11) 70歳以上

Q2. 現在のあなたの職業(仕事の領域)は次のどれですか。(1つのみ)

- (1) 事務職 (2) 販売関係 (3) 製造・作業 (4) 専門技術的 (5) サービス業 (6) 経営管理的 (7) 学生 (8) 無職 (9) その他

Q3. 最終の卒業校はどれですか。(1) 中学校(旧制小) (2) 高等学校(旧制中) (3) 短大・専門学校 (4) 大学・大学院

Q4. あなたの学習分野に○印、ボランティア活動分野に△印をつけて下さい。(各3つ以内)

- (1) 街づくり・地域活動 (2) 教育関係 (3) 国際交流・国際援助 (4) 環境問題 (5) 社会福祉関係 (6) 消費者運動・生活改善 (7) 専門技術向上・職業訓練 (8) 人権擁護 (9) 趣味・一般教養 (10) 健康保持・体力づくり (11) その他()

Q5. 団体に所属し活動を始めて何年になりますか。(1) 1年以内 (2) 2～5年 (3) 6～9年 (4) 10～19年 (5) 20年以上

Q6. 活動への参加回数はいかがですか。(1) 年5回以内 (2) 年6～10回 (3) 月1～3回 (4) 月4～9回 (5) 月10回以上

Q7. 継続学習によって、あなたの生活にどのような影響がありましたか。(2つ以内)

- (1) 自分と違う考えを理解できるようになった (2) 意見をはっきり言えるようになった (3) 教養が高まった (4) 自分を客観的に評価するようになった (5) 仕事がどんなものかわかった (6) 生活に張りができた (7) 経験を積み自信がわいた (8) 一生つき合える友人ができた (9) 高齢期への恐れがなくなった (10) 活動が評価につながり、就職できた (11) 健康になった (12) リハビリの効果があつた (13) 若返った (14) 家族から苦情が出た (15) 無理をして体調を崩した (16) その他

Q8. キャリア・アップのために受けた場合は○印、希望のものには△印をして下さい。(各3つ以内)

- (1) 経験なし (2) 各種・専修学校講座 (3) 高校公開講座 (4) 大学公開講座 (5) 通信教育 (6) 放送大学 (7) 大学科目履修 (8) 大学(院)正規課程 (9) 公共団体主催キャリア講座 (10) 民間・他企業主催キャリア講座 (11) その他

Q9. 男性が仕事する時、社会から期待される能力は何だと思いますか。(3つ以内)

- (1) 企画・分析・問題解決など仕事の処理能力 (2) 専門知識と技能・技術 (3) 判断力 (4) 仕事への責任感 (5) 聞く話す等表現、コミュニケーション能力 (6) リーダーシップ (7) 協調性・適応性 (8) 一般常識 (9) その他()

Q10. 女性が仕事(有給・無給共)する時、社会から期待される能力は何だと思いますか(3つ以内)

- (1) 企画・分析・問題解決など仕事の処理能力 (2) 専門知識と技能・技術 (3) 判断力 (4) 仕事への責任感 (5) 聞く話す等表現、コミュニケーション能力 (6) リーダー・シップ (7) 協調性・適応性 (8) 一般常識 (9) その他()

Q11. あなたは、女性が長く働き続けるためには何が必要だと思いますか。(3つ以内)

- (1) 昇進昇級・仕事分担など男女平等機会促進 (2) 労働時間の短縮やフレックスタイムの導入 (3) キャリア教育充実 (4) 女性が働ける職域開発 (5) 再雇用制度の充実 (6) 産休・育児休業制度の充実 (7) 保育所での保育時間延長 (8) 学童保育制度の整備 (9) 家事支援サービスの普及による家事負担軽減 (10) ホームヘルパー等の家事援助制度充実 (11) 介護休暇制度の充実 (12) 男性の家事・育児参加への理解と協力 (13) その他()

Q12. あなたのライフプラン、生きがい、継続学習・ボランティア活動などについて書いて下さい。

II. 現在、有給の仕事をしている方におうかがいします。

Q13. 1週間の平均実働時間は次のどれですか。(1) 10時間未満 (2) 10～29時間 (3) 30～49時間 (4) 50時間以上

Q14. 就業形態についてうかがいます。(1) 正社員 (2) パートタイム・臨時・嘱託 (3) 派遣社員 (4) フリー (5) 自営

Q15. 職場での役職についてうかがいます。(1) 一般職 (2) 中間管理職 (3) 管理職 (4) 経営者 (5) その他

Q16. 職場の自己啓発援助で利用したものに○印、希望するものに△印をして下さい(各4つ以内)

- (1) 自主参加の社内講座・講演会 (2) 社内文化催事・発表会等 (3) 社外講座・セミナー等受講援助 (4) 試験・検定の社内実施 (5) 公的資格取得援助 (6) 図書・テープ・視聴覚機材の貸出し (7) 参考図書・テープ等購入援助 (8) 国内外研修・留学援助 (9) 研修休暇 (10) 専門知識・技術等の情報提供 (11) 自主勉強会・研究会援助 (12) その他

Q17. 社外のキャリア教育に対して今後どのような条件整備が必要だと思いますか(3つ以内)

- (1) 受け入れ施設拡充 (2) ニーズに合うカリキュラム開発 (3) 開講時間多様化 (4) 長期有給教育制度拡充 (5) 教育期間内の業務分担・勤務時間への配慮 (6) 教育終了後の職場復帰保証 (7) 能力発揮の機会提供 (8) その他

Q18. あなたのご家庭の夫婦役割分担についてうかがいます。

- (1) 共働き、家事・育児は妻 (2) 夫仕事、妻家事・育児に差し支えない程度に仕事 (3) 共働き、家事・育児分担 (4) 共働き、家事育児は他の家族や保育所に頼る (5) 妻仕事、夫家事・育児 (6) 配偶者がいない (7) その他

Q19. あなたは転職・再就職を望んでいますか。 a: (1) はい (2) いいえ b: コメント()

Q20. 産業界・教育界における最近の動きについて、お考えを書いて下さい。 -ご協力有り難うございました-